



※植物、動物の円の大きさは、評価点に比例させた。分類群毎の評価点の差を平準化するために、メッシュ評価点を分類群の評価点最大値(動物は段戸山・寧比曾岳、植物は茶臼山)で除した値を円の半径に割り当てた。これらの円が集中する場所を生物多様性ホットスポットとして抽出した。

図4－1 検討対象地域で抽出された生物多様性ホットスポット

(3) 野生動植物種の生息生育適地への環境配慮

希少な野生動植物種を保全するためには、既知の生息生育地だけでなくその生息生育適地にも留意することが重要である。今回、ある特定の野生動物の生息適地の推定を試みた。試みとして作成した生息適地推定図は資料編に示すとおりである。

7 地域の活性化

奥山には、災害の防止、水源のかん養、生物多様性の確保、地球温暖化の防止など、奥山のみならず、下流域に生活している都市住民の安全で健康な暮らしを支える森林などの多様な自然環境があり、県全体でこの地域を活性化していく必要がある。

このため、自然や歴史・文化といった奥山の地域資源や近年の農山村への関心の高まりを活かすことにより、U I J ターンを拡大し、農林業等の担い手の確保につなげることが必要である。

また、奥山では、新城市四谷における千枚田（写真4－9）の保存活動のように、都市と農村との交流を通じた地域の活性化、里山の環境整備を目的とした取組などが行われている例もある。今後とも都市との交流を強化し、N P O 等多様な主体との連携を強化することが必要である。

さらに、地域資源を活かしたエコツーリズムは、自然環境の保全、環境教育の推進とともに観光の振興にも資するものであり、地域の活性化の観点からも推進していくことが必要である。



写真4－9 新城市四谷
の千枚田

第5章 奥山生態系の保全に向けて

奥山は、ブナ林をはじめとした自然林など多様な自然が広がっている。また、多様な地形や地質が見られ、希少種をはじめとした多様な動植物が生息生育する草地、河川もある。このように、奥山は、本県の生物多様性を支える上で重要な地域である。しかしながら、現在生じている様々な課題によって、生物多様性を確保が難しくなつてきており、奥山生態系の保全を進めることが必要である。

奥山生態系の保全には、森林、草地、河川といった環境の違いに着目し、自然林の保全や管理、二次林・人工林の整備を含めた森林の持続可能な利用を推進するとともに、草地の維持・再生、河川生態系の保全・再生等を進めることが必要となる。また、地域特性に即した保全が重要となることから、地域生態系の特徴を整理した環境カルテを参考にして、地域特性を踏まえた保全に取り組むことが必要である。

一方で、奥山は、県民が自然と親しみ触れ合う場、自然の恵みを受ける場としても広く利用されている。このことから、奥山の自然の恩恵を受けている都市部も含め県全体で、奥山を人と自然が共生し、多様な生き物が生息生育できる場として保全するという意識を持つことが重要である。保全を進めるための担い手を確保するためにも、都市部との連携・協力の強化など、奥山の地域の活性化を進めていくことが基本となる。

奥山生態系の保全を進めていくためには、県民、林業関係者、N P O／N G O、専門家、企業・事業者、行政などの各主体が連携・協力の上、以下に示す役割を果たすことが必要となる。

○ 県民

- ・ 社会全体で健全な森林を支えることへの理解と認識を深める。
- ・ 森林整備・保全をはじめとした自然環境保全の取組を進める。

○ 林業関係者（林業従事者・森林所有者等）

- ・ 森林整備の担い手との認識を持ち積極的な取組を進める。

○ N P O／N G O

- ・ 自然環境保全、森林環境教育のリーダーとしての活動を行う。

○ 研究者などの専門家

- ・ 科学的かつ客観的な自然環境データの収集と提供を行う。
- ・ 希少種の保全方法など生態系保全に資する必要な情報の提供、助言を行う。

○ 企業・事業者

- ・ 生物多様性の保全に配慮した事業の実施に努める。
- ・ 森林整備等に係るC S R活動を積極的に進める。

○ 行政

- ・ 地域森林計画、市町村森林整備計画及び国有林の地域別の森林計画により、森林整備・保全を推進する。
- ・ 狩猟者の育成支援および特定鳥獣保護管理計画により、生物多様性の保全の観点も踏まえたニホンジカ等の個体数管理を行う。

- ・生態系保全を視野に入れた山村地域の振興計画を策定し推進する。
- ・希少種情報の把握、管理及び提供を行う。
- ・環境学習のためのプログラムを作成し、実践するフィールドを提供する。